

二名地区 第3回 地域コミュニティワークショップ 概要

日時	平成27年9月26日(土) 15時00分～17時00分
場所	二名公民館西登美ヶ丘分館
出席者	二名地区各種市民公益活動団体等 約20名

ワークショップの内容

1 開会

坂上自治連合会長から挨拶があった。これまで3回実施してきたが、回を経るにつれて参加人数が減ってきているのは残念であるが、このワークショップの後、二名地区はパイロット地区にも指定されているので、協力をお願いしたい。

ファシリテーターを務める榊ひとまの宝楽陸寛氏から、前回の振り返りがあった。

2 市からのコメント

第1回及び第2回のワークショップで出された課題やそれに対する解決策等について、市からのコメントを伝えた。(詳細は別紙「意見一覧」参照)

3 意見交換(抜粋)

コメントに対する意見交換をした。その際に出た主な意見・課題は以下のとおりである。(ワークショップで話し合った個々の課題等ではなく、主に地域自治協議会についての意見や質問だった。)

(1) 地域自治協議会の推進に係る市の具体的ビジョンについて

※発言は○=地域 □=市

○：今回の資料には上部に地域のビジョンを短期・中期・長期という時間軸で挙げただけ、前回までのワークショップで出た問題に関して、市がどういった取組みをしているか、あるいはどういった考えを持っているかをコメントとしていただいた。しかし、市としてのその先に見える中長期的なビジョンがわからない。特に今取り組んでおられる地域自治協議会について、11月に市民参画及び協働によるまちづくり条例を改正されると聞いているが、地域としては行政がどのように進めていこうとしているのかがわからない。

□：市の各種施策については当然各種計画を策定し、それに基づき推進を図ってはいるが、今回の資料にはそこまでは示せていない。市としても地域自治協議会の取組みを進めていく必要性は感じており、条例の改正及び「市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」の見直しを図っているところである。なお、条例改正については11月ではなく、今年度中に改正の方向で進めている。

○：11月に条例が改正されるので、今年度中にとにかく地域自治協議会を作らなければならないという意識があったが、今日の話聞いてそうではないことがわかった。

(2) 市民参画及び協働によるまちづくり条例の改正内容について

○：条例の改正について、どういった形で改正されるのかを関係にわかりやすく教えてほしい。

□：6月15日に事前説明で伺った際にも申し上げたが、今回の改正は、この条例に地域自治協議会という地域における新たな組織を地域住民が主体となって作ることができる旨を追加しようというものである。

(3) パイロット地区について

○：パイロット地区については「取り組まない」ということも可能なのか。

□：パイロット地区は奈良市自治連合会が進められている取組みであり、答えかねる質問である。このワークショップについては奈良市自治連合会と協働して取り組んでおり、この結果については市としても「協働のまちづくり推進庁内検討委員会」において検討させていただく予定である。

(4) 協働のまちづくり推進庁内検討委員会から各部署への周知について

○：奈良市自治連合会と市民活動部（地域活動推進課・協働推進課）で協働して地域自治協議会の設立に向けた取組みを進めているが、この動きが他部署にあまり波及しておらず、その部署が所管する団体等も地域自治協議会についてあまりご存じでないので、庁内検討委員会を通じて全庁的にこのことを検討していただきたい。

(5) 市の地域支援の今後のあり方について

○：自治連合会やその他各種団体の抱えている課題を解決するためには市からの支援が必要であるが、二名地区のことを充分把握していただいている市職員がいない。

□：現状、各地区の担当職員として地区調整員を置き、二名地区については西部出張所の職員が地区調整員を務めている。また市社協でも地域担当の職員の方がおられる。このワークショップには市社協の職員にもご参加いただいているが、この取組みを進めるにあたり、そういった行政側の連携もさらに密にしていく必要があると思う。なおこのワークショップには、各テーブルのファシリテーターとして協働推進課以外の市職員も参加させていただいている。

○：二名地区の場合、自治連合会の毎月の会議に各種団体も参加しており、一堂に会する機会はあるが、様々な課題について自治連合会長である私に全て相談されるため、自治連合会長としてどのように処理していけばいいかわからない状況である。

○：自治連合会長が住民からの様々な相談の仕分けができていないという原因の一つに、気軽に相談できる市職員がいないということが挙げられるのではないかと。協働推進課の職員なり誰か行政側の職員が相談相手になってあげないといけないと思う。

□：現状、西部出張所に二名地区担当の地区調整員がいるが、本庁等に配属されている調整員と比べ担当地区も多く、各地区の自治連合会とあまり深く関わっていないという状況である。

(6) 幅広い年代に参加してもらいたい必要性について

○：私はPTA役員として今回参加させていただいているが、出席者の中に同年代の男性（30代、40代）がいないので、幅広い年代に参加を呼び掛けていく必要があると思った。

4 まとめ

宝楽氏から3回のまとめがあった。

今回出てきた個々の課題について、毎月の自治連合会の会議を利用してラウンドテーブル形式で話し合ってみることが大切である。その場で課題について話し合っていくことで、課題解決に向けた意識を皆で共有していくことができると思う。そういった場を持って行くことについて地域で検討してほしい。

最後に、坂上自治連合会長から挨拶があった。私は地域自治協議会を立ち上げていきたいと思っているが、そのためには皆さんの協力が不可欠である。今後ともご協力をお願いしたい。

以上